

9. ブドウのチャノキイロアザミウマに対するネオニコチノイド系剤の薬剤感受性低下 (情報)			
[要約] ブドウに発生するチャノキイロアザミウマをアドマイヤー剤を多用して防除した圃場では、ネオニコチノイド系剤に感受性が低下した個体群が認められる。			
研究室名	病虫研究室	連絡先	086-955-0543

[背景・ねらい]

近年、温室ブドウを中心にチャノキイロアザミウマによる果実被害が多く、品質低下の大きな原因となっている。被害が増加した原因の一つとして、主要な薬剤の効果が低下していることが考えられたため、薬剤感受性検定を行い、対策指導上の参考資料とする。

[成果の概要・特徴]

1. A個体群

- (1) 有機リン系剤、ネライストキシン剤、合成ピレスロイド系剤、その他の計7薬剤では、死虫率が約90~100%と高かった(表1)。
- (2) ネオニコチノイド系剤では、ベストガードを除く6薬剤で死虫率が60%以下と低かった(表1)。
- (3) 現地では、天敵農薬(ミヤコカブリダニ)が利用されており、天敵に影響の小さいアドマイヤー(ネオニコチノイド系剤)が数年にわたり多用されていた。
- (4) アクタラ、バリアードでは、ほとんど使用実績がなかったにもかかわらず、死虫率が著しく低下していた。

2. B個体群

- (1) 有機リン系剤、ネライストキシン剤、合成ピレスロイド系剤、その他の計7薬剤では、死虫率がすべて100%と高かった(表1)。
- (2) ネオニコチノイド系剤では、死虫率が約80~100%とおおむね高かった(表1)。
- (3) 主にスカウト、コテツが防除に使用されており、ネオニコチノイド系剤の使用頻度は低かった。

[成果の活用面・留意点]

1. 薬剤散布後(3~7日後)に効果を確認し、感受性低下の有無を判断する。
2. 同系統の薬剤の連用は避け、ローテーション防除に努める。

[具体的データ]

表1 ブドウのチャノキイロアザミウマ幼虫の薬剤感受性（平成17年）

系統名	薬剤名	希釈倍数	供試虫数	死虫率（%）	
				A	B
有機リン系剤	オルトラン水和剤	1,500	40	100	100
ネライストキシン剤	パダンSG水溶剤	1,500	40	100	100
合成ピレスロイド系剤	アーデント水和剤	1,000	40	100	100
	アディオン水和剤	2,000	40	90.9	100
	スカウトフロアブル	2,000	40	96.2	100
	テルスターフロアブル	4,000	40	100	100
ネオニコチノイド系剤	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	40	3.2	90.3
	アドマイヤーフロアブル	5,000	40	54.8	94.4
	スタークル顆粒水溶剤	1,000	40	25.0	81.8
	ダントツ水溶剤	2,000	40	31.8	97.2
	バリアード顆粒水和剤	4,000	40	11.8	96.9
	ベストガード水溶剤	1,000	40	87.9	100
	モスピラン水溶剤	2,000	40	57.6	100
その他	コテツフロアブル	2,000	40	100	100
	水	—	80	2.9	7.4

注) 葉片浸漬法により検定を行った

[その他]

試験研究課題：果樹主要病害虫の効率的防除薬剤の実用化試験

予算区分：県単

研究期間：平成17年度